

武豊町児童生徒の意見発表会

問合せ 役場学校教育課

優秀賞



たった一つの命
武豊小6年 早坂 莉里奈



いじめはいや
衣浦小6年 遠藤 菜央



ありがとうのまほう
富貴小6年 森田 杏奈



私たちは同じじゃない
緑丘小6年 新 悠季衣



みんなが笑顔になれるボランティア活動
武豊中2年 山際 はな



日本の革命
富貴中3年 渡邊 愛華

優良賞



- | | |
|--------------|--------------|
| 川井 咲希(武豊小6年) | 渡邊明日香(武豊小6年) |
| 鈴木 愛珠(衣浦小6年) | 渡瀬 天子(衣浦小6年) |
| 粕山 大翔(富貴小6年) | 山下 杏奈(富貴小6年) |
| 川田 知奈(緑丘小6年) | 久米みずほ(緑丘小6年) |
| 片瀬 由理(武豊中1年) | 藤光 紗依(武豊中2年) |
| 荒川 結莉(武豊中2年) | 泉澤さくら(富貴中3年) |
| 池原 琴子(富貴中2年) | 深谷 亮太(富貴中1年) |

入賞



- | | |
|--------------|--------------|
| 藤城 壮(武豊小6年) | 久野紗友実(武豊小6年) |
| 山口 碧彩(武豊小6年) | 加藤 蒼乃(衣浦小6年) |
| 都築虹衣奈(衣浦小6年) | 前田 祐里(衣浦小6年) |
| 奥田 心晴(富貴小6年) | 平山 結夕(富貴小6年) |
| 森田 千裕(富貴小6年) | 渡邊蒼一朗(緑丘小6年) |
| 松下 ねね(緑丘小6年) | 近藤 陸樹(緑丘小6年) |
| 上埜 朝香(武豊中3年) | 河西 茉央(武豊中3年) |
| 前田 悠名(武豊中3年) | 高木あろは(富貴中3年) |
| 新海 碧斗(富貴中2年) | 土屋 朱里(富貴中1年) |

11月13日(水)に、富貴中学校で「児童生徒の意見発表会」が行われました。応募総数1,693点の中から、見事優秀賞に選ばれた6人が日々の生活での気づきや喜びについて書かれた作品を発表しました。今回は、その中から代表で2人の作文をご紹介します。



武豊町制65周年記念

「民謡魂 ふるさとの唄」 公開録画の実施



武豊町とNHK名古屋放送局では、武豊町制65周年を記念して「民謡魂 ふるさとの唄」の公開録画を実施します。TOKIOのリーダー・城島茂さんの司会で紡がれるダイナミックなステージショーで、全国各地に脈々と息づく唄や郷土芸能の数々を掘り起こし、ふるさとの“知られざる魅力”を再発見する番組です。観覧ご希望の方は、下記のとおり、お申込みください。

日時 2年2月9日(日)
開場/17:00 開演/18:00
終演/19:30(予定)

場所 ゆめたろうプラザ 輝きホール

出演 【司会】城島茂(TOKIO)、塩屋紀克アナウンサー
【ゲスト】未定 ※決まり次第、NHK名古屋放送局のホームページ等でお知らせします

【唄】成世昌平、水野詩都子、松阪ゆうき ほか

【三味線】二代目藤本瑋文、藤本秀心

【尺八・笛】米谷和修

【鳴物】美鵬那る駒、美鵬成る駒

【はやし詞】西田美和、西田りさ



城島茂

応募方法 入場無料。郵便往復はがき(私製はがきを除く)にてお申込みください
【往信表面】(あて先)〒461-8725 NHK名古屋放送局「民謡魂」係
【往信裏面】①郵便番号 ②住所 ③名前 ④電話番号
【返信表面】①郵便番号 ②住所 ③名前
【返信裏面】何も書かないでください(抽選結果を印刷してご返送いたします)
※往復はがきの郵便料金が126円となりましたのでご注意ください
※応募多数の場合は抽選のうえ、当選の人には入場整理券(1枚で2人入場可)を、落選の人には落選通知を2年1月24日(金)ごろに発送します
※未就学児の入場はご遠慮ください ※当選は1人1枚とさせていただきます
※インターネットオークション等での売買を目的としたお申込みは固くお断りいたします

【締切】2年1月17日(金)必着

放送予定 2年3月1日(日) 15:05~15:49<総合テレビ>

主催 武豊町、NHK名古屋放送局・名古屋駅前営業センター

問合せ NHKプラネット中部 ☎052-952-7381 (平日 10:00~18:00)
役場生涯学習課 (平日 8:30~17:15)

ご応募の際にいただいた情報は抽選結果のご連絡のほか、NHKでは、受信料のお願いに使用させていただく場合があります。



たった一つの命
はやさかりりな
武豊小6年 早坂莉里奈

命、それは 一つしかなく、ゲームのように何度もやり直すことができないもので、お父さん、お母さんがくれたとても大切なプレゼントです。

みなさんは、命について考えたことがありますか。私はあることがきっかけで、命について考えるようになったになりました。

それは、学期の最後の日に、先生から聞いたお話でした。

「武豊町は、千六百日以上交通事故で亡くなった人がいません。でも、一人でも交通事故で命を落としてしまったら、この数字は一気にゼロに戻ってしまいます。だから、絶対にそのようなことがないように気をつけて休みの時間を過

ごしてく下さい。」という内容でした。

千六百という数字があるのは、一人一人がふだんから交通安全を心がけているからだと思います。

交通事故は、いつ、どこで起きるか分かりません。だれも起こそうとして起こしているわけではありません。しかし、そんな事故で命を落としてしまうなんてことは、絶対にあってはいけないことだと思います。そして、この数字がいつまでも続くように、一人一人が交通安全を心がけていくことが大切だと思います。

私は去年、登校班の班長をしていました。その時に校長先生から「顔を上げて前を向いて歩きましょう。」や、「班長さんは班の子のことを気にかけて、気を付けて登校してください。」などの、交通安全に関するたくさんのお話をしていただきました。私はこれらを意識して登校するようになりました。言われた通り、顔を上げて前を見て歩くと、周りの様子がよく分かり、また、信号などが変わっても、すぐに気付く事ができました。周りをしっかり見て、いち早く気が付くことができれば、大切な命を守

れるのではないかとあらためて思いました。

命を落とした後に後悔しても、命はもどってこないし、やり直せるわけではありません。「あの時もっとしっかり見ておけば良かった。」あの時あしておけば良かった。」と思っても、もう遅いのです。これから先の皆さんの楽しいことや、将来の夢も全てなくなってしまうのです。それに、お父さん、お母さん、他にもたくさんの方が悲しみます。だから、そんな人生の終わり方なんて絶対あってはならないのです。私は、大人になったとしても、校長先生から教わった事を守っていきます。

もう一つ、私が命について考える事になった出来事がありました。それは、ある動画を見たときのことでした。その動画は、一秒の間に世界中で二人が亡くなっているという内容でした。私はこの内容に衝撃を受けました。たった一秒の間に、二人も亡くなっているなんて、とてもこわくなりました。今、この作文を書いている間にも、一体何人の人が亡くなっているのでしょうか。でも、その動画には続きがありました。それは、一秒の間に

二つの命が生まれているというものでした。終わる命もあるけれど、新しく始まる命もあり、このように命はつながっているんだなあと思いました。

私たちはこれからどのような人生を歩んでいくのかわかりません。一人一人ちがった道を歩いて行くのです。でもみんな同じなのは、命はたった一つしかないということです。

命はだれにとっても大切なものです。命をくれたお父さん・お母さんに感謝しています。そしてお父さん・お母さんを生んでくれたおじいちゃん・おばあちゃんにもです。そうやって命はつながっているのです。そして私からも次の命へとつなげていくのです。あなたの命はあなただけのものではないのです。だから、大切な命を守るためにできることを考えてみてください。あなたの大切な命と夢を守るには、あなたなのです。自分の命を自分で守るという事は、みんなの命が守られるということでもあるのです。それが幸せな未来へつながる力ギなのです。

今生きているということは、とてもすばらしいことなのです。



日本の革命
わたなべ あいか
富貴中3年 渡邊 愛華

皆さんは、LGBTを知っていますか。LGBTとは、Lが女性同性愛者。Gは男性同性愛者。Bは両性愛者。Tは性別越境者という意味です。日本では人口の7.6%、約13人に1人がLGBTと言われています。

日本には職場にLGBTの方がいると抵抗を感じるという人は3人に1人という割合です。その割合は40代、50代と年齢を重ねるごとに、高くなる傾向があります。なぜ、日本ではLGBTへの理解を示す人が少ないのでしょうか。私は、LGBTへの抵抗を感じる人が多い原因は二つあると考えました。

一つ目は、若者たちへの理解を進めるべくLGBTについての教育が取り入れられていないということ

です。これは多くのアジアの国々で共通しており、欧米の諸国に比べてLGBTの人々への理解や、受け入れがうまくなっています。

学校などで彼らの人権について学べる機会を与えていないというのが大きいと考えます。アメリカではオバマ前大統領がアメリカ全土のLGBTの学生たちに「自分たちの心に忠実に、彼らを選び制服を着るという自由を与える」ということを訴えました。それに比べて日本での現状はどうなっているのでしょうか。制服のある日本のほとんどの学校では、LGBTの学生は「男子用」「女子用」の制服を選ぶ権利がありません。心は女性であっても男性の制服を着ることを余儀なくされています。心の中に見えない葛藤が生まれてしまっています。LGBTの子どもの中には、うつ病にかかってしまったり、ひどく落ち込むことになってしまったりする子もいます。中には自殺に追い込まれてしまうケースも少なくありません。

彼らが心のままの姿で生活ができ、主張もでき、一人の人間として当たり前に生きることができる社会が、今の日本に求められていることだと思います。

二つ目は、法律や制度がLGBTを想定したものになっていないということです。日本の政府が彼らのために、法律から見直していく必要があると考えています。彼らがより自然な生活を送るためにも、法律のレベルで守られる必要があると思うからです。

アメリカでは同性愛者の結婚を5年ほど前に合法としました。他にもヨーロッパのEU加盟国でもかなり早い時期から認められています。しかし日本では同性愛者たちの婚姻などに関する法律や制度が整っていません。

日本では同性愛者に対する偏見がとて強く、保守的な考えを持つ人々も多いために、国会議員でさえも同性婚に対してネガティブな考えを持つ人が多いのが実情です。「同性婚を認めてしまうと日本の少子高齢化の社会には厳しいのだ。」子供が出来ないカップルは生産率に反映されないからムダだ。」とテレビで発言した議員さんもいました。

私は、同性婚をしてしまうと子供が生まれず、もっと少子高齢化が深刻になるからダメという考えとは逆に、同性婚を認め、さらに卵子や精子の提供、代理母や代理出産の制度

を整えていくのもひとつのアイデアなのではないかと思っています。

そうしたことで、日本だけでなく理解の進んでいないアジアの国々全体で意識改革を進め、LGBTの人々に対する理解を、アジア全体でさらに深めていけるのではないかと考えます。

私は現在、LGBTの友だちはいません。話をしたこともありません。だから、彼らの気持ちを完全に知ることはできないかもしれませんが、少し、少なくとも彼らを受け入れたい、話を聞き彼らを理解したいと心から思っています。

台湾ではアジアで初めて同性婚が認められました。この勇気ある一歩は日本を含め、他のアジアの国々にとって大きな刺激になりました。

古いならわしや考えを守ることは、とてもすばらしいことだと思いますが、時代や人々の考え方は日々変化していきます。私たち日本も今こそ変化すべき時が来たのではないのでしょうか。全ての人の人権が護られ手を取り合って暮らせる社会の実現のために、私たちの日本も、今こそ意識の革命を迫られているのです。